



第29号

秋田県立金足農業高等学校
同窓会 発
〒010-0126
秋田市金足追分
字海老穴102の4
☎018-873-3311
FAX 018-873-3313
株式会社 二郎簿印刷
☎018-875-4005



農業の時代が来た！

同窓会会長 高橋浩人

秋田県立金足農業高等学校同窓会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、同窓会事業にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

二月一日に同窓である豪風閣（現押尾川親方）においては、断髪式を盛会に挙行し、私も同窓会長として鉢を入れさせて頂きました。今後、親方としての活躍を同窓会としても応援していきたいと思っております。

影響が出てきております。新卒業生においては、社会や大学でコロナウイルスに負けずに頑張っていることを願っております。混乱した社会で、人間が生きていくために食料は最も重要なものです。日本の食料自給率は三十七%まで下がっていて、農作物の輸入が停滞すれば大きな影響を受けることとなります。

新型コロナウイルス感染症の発生で、政府の緊急事態宣言が出されるなど日本ばかりか世界が大混乱の中にあります。金足農業高校においても、卒業式・入学式の縮小を余儀なくされ各種大会や合宿の中止など生徒の活動にも



そうした中、母校の新校舎建設に関する基本構想が検討されており、校舎や農場が最先端の農業を学ぶ場として生まれ変わるよう、同窓会としても全面的に支援して参りたいと存じます。金足農業高校の発展と同窓会員の皆様の益々のご活躍をご祈念申し上げ、挨拶といたします。



予測不可能な時代

校長 渡辺 勉

新型コロナウイルスの影響を受け、全国に発出された緊急事態宣言がようやく解除されたものの、一層の行動自粛や自制が求められている中、同窓会員の皆様には変わらぬ御支援と御協力をいただき感謝申し上げます。

世界的に新型コロナウイルス感染症が蔓延し、学校での教育活動において、これまで経験したことのない事態になっており、学習機会や進路先の保障、心のケアを最優先として取り組んでおります。国内で今年一月に大型旅客船での感染拡大が報道されてもまだよそ事のように感じていたが、首都圏で感染者が増え始め、急転直下、感染拡大防止のため三月から学校が臨時休校となりました。

本校では卒業式は卒業生と教職員のみで行い、保護者と在校生は出席することが叶わず、寂しい限りでありました。四月に入り臨時休校が解除となったものの、始業式・入学式の一週間のみ出校し再び休校措置がとられました。現在は、再登校が始まっており生徒も落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、インターハイや甲子園

大会の中止による影響は計り知れず、これまで積み重ねてきた努力の成果を発揮する機会を失ったことは、生徒のみならず保護者にとっても大きなショックとなつてしまいました。代替大会の実施に当たっては越えなければならぬハードルは高いものの前向きに捉えていきたいと思っております。

さて、このような状況下ではありますが、今年度から大きな事業が始まるようにしております。まず、昨年十二月に本校職員や外部有識者でつくる「金足農業高等学校将来構想検討委員会」が、老朽化の進む校舎の建て替えを見据え、実習施設や教育内容の充実を求める要望書を県教育長に手渡していただきました。これを受け、この四月末に校舎改築基本構想案を県教委に提出しております。この後様々な調整をとりながら構想をまとめていくこととなりますが、本校の百周年に向け、さらには五十年後、百年後の秋田県農業の方向性を見据えた構想にしたいと思っておりますので、引き続き御協力を願っています。

次に、この四月に文科省

の指定事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」プロフェツショナル型に採択されました。この事業は、令和二年度から三年間の予定で、総額約一千五百万円規模の事業であります。研究開発構想名を「縮減社会を生き抜き、あきたの未来を創造する新たな農業高校成長モデルの研究開発」とし、コンソーシアムにおいて地域ニーズを教育活動に取り入れ、①「グローバルスタディ」領域、②「第四次産業・農業革命」領域、③「ソーシャルスキルアップ」領域、④「地域一体型農業コミュニティ形成」領域で、農業の各科目と学校設定科目との有機的融合を図り、地域に開かれたカリキュラム開発を行います。また、プロジェクト学習法により課題解決、商品開発、先進的技術・設備の導入等を行い、成果を地域に普及させることを目的としています。

映画やドラマの世界の出来事と考えていたようなことが突発的に現実となる、予測不可能な時代になりつつありますが、農業教育の充実を図りながら、柔軟な対応力をもった次世代を担う人材の育成に努めて参ります。今後も、同窓の皆様との御協力をお願い申し上げます。同窓の益々の御隆盛と会員の皆様の御健勝を祈念して、あいさつとさせていただきます。

本校に新名所 誕生

第100回甲子園大会準優勝記念碑除幕式



幕が落ち輝きを放つ 記念碑

快進撃を称え

野球部の甲子園準優勝と県民栄誉章の受章を記念する石碑が建てられた。昨年8月12日の振替休日、あぐり交流館でその除幕式が行われた。当日は晴天に恵まれ、午前11時より開催された除幕式は同窓会員をはじめ活躍した選手たちや関係者、報道陣が多く駆けつけた。

あぐり交流館内では関係者の紹介や校長による建立者代表挨拶が行われた。紅白の幕で囲まれた館内は祝福ムードに包まれ、一年前の金農旋風・雑草軍団大活躍の日々がよみがえってくる。

校長は「去年のことがとても懐かしく思え、つい昨日のこのように感じる。去年の栄光を100年の後世に残すべくこの記念碑を建てた」と挨拶した。除幕式では幕に繋がれた

ひもを、校長をはじめ同窓会長や野球部監督、菅原天空さんから8人で左右を持ち引いた。幕が落ちた瞬間は、会場から歓声が上がった。記念碑は、よく磨かれ(6回も研磨した仕上がりとなっている)より一層の輝きを放っているように見えた。

除幕式に参加していた去年のヒーローたちにインタビューをした。菅原天空さんは「(石碑が建った事について)自分たちの力だけでは建てられなかつた。同窓会の方々ははじめ応援してくれてくださった。心から感謝の気持ちでいっぱいだった。」と感慨深げ

た。また、野球については「大学野球ではバットが金属から木製に変わった。慣れるまで時間がかかると思うのもつと練習したい。昨年のチームの活躍で、周りから注目されるので気を引き締めて生活している」と真剣な表情で語った。(金農EXPRESS 第24号より)



除幕式に参加したヒーロー達

最近の様子は「仕事(JR)が大変だが、厳しさも含めて毎日を楽しむことを頑張りたい。最近嬉しかったのは、久しぶりにヒットを打てたこと」と笑顔で話した。

高橋佑輔さんは「今一番頑張っていることは勉強。東京農業大学では金農で学んだことを生かし、更に発展した内容に取り組んでいる。将来は教員として母校に戻ってきたいので、そのための勉強との両立が大変だが頑張っている」と話した。

また、野球については「大学野球ではバットが金属から木製に変わった。慣れるまで時間がかかると思うのもつと練習したい。昨年のチームの活躍で、周りから注目されるので気を引き締めて生活している」と真剣な表情で語った。(金農EXPRESS 第24号より)

お待たせ!

金農パン

～秋田の特産品を活かして～

共同開発9年目となる「金農パン」が5月22日(金)より県内ローソンで販売された。

今回は校内2,3年生の有志72名が参加し、4種類のベーカリーを製品化した。

「金農塩パンケーキ キャラメルクリーム&くるみ」と「金農いぶりがっこチーズパン」が6月29日まで。30日からは「金農パンケーキ・リンゴ&牛乳クリーム」と「金農ブリュレ風パン、サツマイモ入り」が販売された。

県産小麦「ねばりごし」鳥海高原花立牧場の「ジャージー牛乳」秋田名物「いぶりがっこ」等を材料に開発されたものだ。「いぶりがっこチーズパン」を担当した2年の工藤さんは「やみつきになる味」と自信満々に話してくれた。

期間限定ですが、機会がありましたら是非ご賞味ください。(金農EXPRESS 第9号 参照)

